

また、落ち葉の下の土を取り、その中を観察すると、ヤスデやミミズの幼生、ハサミムシの仲間など様々な生物がおり、森林の土壌がいろいろな生物によって作られているのを見ることができました。

森林が土砂の流出や山くずれを防いだりする働きを見る実験では、森林のある山は、木や落ち葉があることで雨で直接地面がたたかれるのを防いだり、土壌がスポンジのように雨を吸い込み、地表を流れないので崩れにくいのに対し、森林のない山は、雨で土が打たれ、地表を流れるため土壌が流出し、斜面や山裾に置かれた家の模型が倒れていく様子に「はげ山には家は建てられん」と森林の持つ土砂流出を防止する働きを理解しようです。



登山道整備について検討中

登山道の整備に向けて

〈徳島森林管理署〉

一〇月二日、徳島県那賀町の鎗戸^{やりと}国有林で登山道の整備を目的とした「おひさんプロジェクト」エコツアーが行われました。これは、剣山南側の魅力発信に取り組むため、当署も企画して八月に設立された「南つるぎ地域活性化協議会」

が企画した取り組みです。剣山系は、登山リフトがある北側が表玄関となつているため、国有林の豊かな天然林や魅力的な溪谷がある南側から訪れる人は少なく、急峻な地形と度重なる豪雨災害などによって登山道の整備は遅れており、たびたび遭難事故も発生しています。

当日は、当署を含め四名の参加があり、南側から

検しました。木頭森林事務所等によって、危険な箇所にはロープの設置等が行われていますが、今年中に、あと三回開催されるエコツアーで順次整備をしていくこととしました。

近年、中高年を中心に登山者が増加しており、当署でも登山者の安全確保のために、昨年からの登山道の整備に努めているところですが、今後ともこのような取り組みにも積極的に参画し、「国民の森林」としての国有林のPRに努めていきたいと考えています。

岩本副大臣、

徳島県を視察

〈徳島森林管理署〉

一〇月七日、岩本農林水産副大臣が徳島県の森林・林業の現状について、現地視察を行いました。

副大臣は、前日、東日本大震災の被害を受けた岩手県内の現場や合板工場等を視察されて、夜遅く徳島入りし、翌七日からは新木局長も同行して、森林・林業再生の萌芽が見える徳島県内を視察されたものです。

副大臣は、まず、被害を受けた東北地方に代わってフル生産状態にある合板工場を訪れ、厚物であれば全て国産材で製造可能であり、原木の安定供給が必要であるという工場側の説明にしきりにうなずいておられました。

次に、美馬森林組合に移動し、昼食をとりながら森林組合役員や若手職員と懇談されました。美馬森林組合には、「緑の雇用」による若手職員が定着し、高性能林業機械によるセットを編成して路網作設や間伐などを行っていますが、副大



作業現場を視察された副大臣

臣は若手職員と和気あいあいと意見交換をされていました。
 そこから、美馬市古宮の作業現場に移動し、作業道の状況や間伐、高性能林業機械による玉切り、運材作業について視察をされました。

副大臣は、局長と当署の池田森林事務所にも立ち

に現地の状況を見ていただくことは重要であり、また、林業や木材産業には将来性があるとの副大臣のご発言には大いに勇気づけられ、対応させていたただいた側にも貴重な機会となりました。

寄られ、最前線で国有林の管理経営に当たっている森林官の業務にも思いを馳せておられたようでした。

今後の森林・林業施策を推進する政務三役

緑のフェアに参加

〈徳島森林管理署〉

一〇月九日～一〇日、徳島市内の藍場浜公園で恒例の「山と木と緑のフェア」が開催され、当署も参加しました。

このフェアは、一〇月の森林・木材利用推進月間の一環として、実行委員会が主催して毎年開催されています。

るもので、当署は徳島水源林整備事務所と連携して、ブースを設営しました。

ブースには、国際森林年の国内テーマ「森を歩く」にちなんで、国有林内の山岳の紹介パネルなどを展示しました。また、折り紙等による木の種作りを実施しました。

連休の秋空の下、多くの方々にブースを訪れていただきましたが、中でも木の種作りに子供

ご来賓として皇族の高円宮久子さまが会場にお見えになり、関係者の方々にも当署のブースをご覧になっていただきました。

当署としては、このような絶好の機会を捉えて「国民の森林」としての国有林やその管理・経営を行っている森林管理署のPRを行い、森林・林業に対する理解と協力を得るよう努めていきたいと考えています。

ウッドライフスタイルに参加

〈香川森林管理事務所〉

一〇月八日、九日の両日、高松市のサンメッセ香川において、「2011ウッドライフスタイル」が開催されました。このイベントは、木材の利用推進を目的に、木材関連団体等が各種催し



折り紙の木の種うまく飛んだかな？

種作りに子供たちは興味深そうに取り組み、できあがった木の種を空に投げ上げては、歓声を上げていました。また、今回このフェアは住生活フェアと共催となっていたため、



つるかご編みの様子

や即売会を実施しているもので、当所も毎年参加しています。

当所では、つるかご編み教室とシイタケの菌打ち体験、木工教室を行いました。つるかご編み教室では、職員が講師となり、大人を中心に参加者が集まり、様々な形のつるかごを完成させました。

また、シイタケの菌打ち体験では、菌打ち用のドリルでほだ木に穴をあけ、ハンマーで菌の駒を打ち付け

る体験を行い、菌を打ち付けたほだ木は参加者にプレゼントしました。

さらに、木工教室では、熊や犬の置物作りにたくさんの子供が参加し、輪切りにした細木、ボンド、マジックを使い、かわいい動物ができて喜んでいました。

いずれのイベントも盛況で、特につるかご編み教室では、午前中に予約がいっぱいになるほど、人気がありました。

また、今年は国際森林年であり、当所においては屋内会場に国際森林年のねらいのパネルを展示しました。

このようなイベントを通じて、森林や国産材の利用について関心を持ってもらえたらと考えています。

受賞おめでとうございます

治山研究発表会で

優秀賞を受賞

〈徳島森林管理署〉

九月二七～二八日、東京の代々木オリンピック記念青少年総合センターで開催された第五一回治山研究発表会に当署の職員がエントリーし、優秀賞を受賞しました。

治山研究発表会は、林野庁の治山研究会の主催で毎年開催されており、各セクションごとに最優秀賞一点と優秀賞二点が表彰されます。

今回は、当署治山課の菊池治山第二係長と敷地祖谷川第一治山事業主任が「檜尾地すべりの高品質ボーリン



受賞された敷地さん(左側) 菊池さん(右側)

グによるすべり面の特性評価について」という演題で発表しました。

その内容は、四国有数の大規模な檜尾地すべりを対象として、採取する資料を乱さない高品質ボーリングによって、地すべり解析に必要な地盤定数を正確に把握したというものです。講評では、

発表内容は目に見えない地下で起こる地すべり対策を検討する上で、大いに参考に値するとの高い評価を受け、「治山計画、地すべり等の取組」セクションで見事に優秀賞に選定されたものです。

今年は台風が相次いで襲来し、災害復旧の対応などで多忙な中、調査を担当したコンサルタントの助言を受けながら、研究発表会の準備を行いました。

当署としては、これらの先進的な発表内容を実際の地すべり対策に反映するとともに、技術者育成という観点からも、このような研究発表会に積極的に取り組んでいきたいと考えています。